【アクションプラン評価表】: 中学校・高等学校

マスタープラン	最終目標	担当部署		アクションプラン	2016	2017	2018	2019	2020
【教育力強化】									
建学の精神、教育目標の確認・実践	建学の精神や教育目標が毎朝の礼拝や学年礼拝・集合礼拝等において確認、実践されている。また、建学の精神を生かして、ボランティア教育・活動が活発に行われている。同時に、キリスト教センターと連携しつつ、各教育活動と宗教教育との整合性等についても適宜、確認等が行なわれている。道徳教育についても学園・学校としての対応が完了している。	宗教	中高	1)建学の精神の理解と実践のために教員を研修会に派遣する。	C	C	C	C	C
				2)生徒対象の創立記念礼拝を実施し、建学の精神の確認と現代的な課題への取組。(道徳教育・ボランティア)	A	A	B	B	A
				3)キリスト教学校教育同盟の研修会に参加し、情報収集情報交換を積極的に行う。	—	—	D	D	D
		地歴公民	中高	1)平和教育の一環として、アンネ・フランク展を実施する。	—	E	—	—	—
グローバル教育の推進（シオン版グローバル教育の構築）	海外大学への進学者を毎年複数名(5名以上)送り出す。また、海外姉妹校への短期留学者数が現在(2015年度)以上となっている。さらに、ユネスコスクール参加が実現され、本校における各活動との関係が有機的に運営されている。教員の研修も充実している。	国際教育	高	1)研修の機会としてもG.R.E.A.T Program（海外語学研修）の引率教員を増員する。50万円×3名　2016年度～	A	A	A	A	E
				2)外部講師を招聘し講演会・研修会等を年1回開催する。（S.G.Aも踏まえ）5万円＋交通費	A	A	A	E	E
				3)交流校が増えたためにAda・Byng姉妹校短期留学の引率教員増員する。　3名×35万円　2017年度～	—	A	A	E	E
				4)新しい国際交流関係構築に関係する調査等を行う。	—	—	B	A	A
		管理職	中高	1)ユネスコスクールへの認可申請。	A	—	—	—	—
				2)ユネスコスクール活動への積極的参加。	—	A	A	A	B
		英語科	高	1)英語科掲示板を設置する。生徒は掲示板を見ることで、英語科が生徒に求めている活動を知ることができる。	—	A	—	—	—
			中高	1)校内標識を英語と日本語の2か国語表記とする。	—	A	—	—	—
中高一貫教育の充実	生徒数は、安定的確保がなされている。また、入学した生徒の賜物を引き出し、伸ばす教育が実践されている。特に、英語教育が充実しており、地域社会から高い評価を得ている。	理科	中高	サイエンス部（中高合同）の活動 1)国際オリンピック一次試験突破に向けた勉強会を行う。	C	B	E	C	C
				2)ＤＮＡ抽出実験から太陽電池に関する実験など幅広い実験や気象観測を行い、各自の研究テーマを作る。そしてそれぞれの研究を筑波大や茨城大などで行われている研究発表会で発表する。また、学生対象の研究論文へ投稿する。	A	B	B	A	A
				3)サイエンス部（中高合同）で、実験、観測、研究を行う。	—	C	E	C	D

マスタープラン	最終目標	担当部署		アクションプラン	2016	2017	2018	2019	2020
		英語科	中	1)中学卒業時に 25%以上の生徒が英検準 2 級を取得し、英検 3 級は全員が取得する。	B	B	B	B	B
			高	1)高校卒業時に 35%以上の生徒が英検 2 級以上を取得し、英検準 2 級は全員が取得する。	D	—	—	—	—
高大連携の推進	茨城キリスト教大学との連携が強化され、茨城キリスト教大学受験者 100 名や Dual-Degree（奨学金付き 1 名）、ICH 科目履修の奨励が行われ、実績を上げている。また、英語教員も可能な限り、茨城キリスト教大学において講義などを受け、研修に努めている。	進路指導	高	1)茨城キリスト教大学見学会を実施する。	D	D	D	A	D
				2)校内で茨城キリスト教大学説明会（大学入試広報）を実施する。	—	D	D	D	A
				3)茨城キリスト教大学の先生から講話等のご協力をいただき、大学における学問をイメージさせる。	—	—	—	A	A
		理科	高	1)サイエンス部を中心に、茨城キリスト教大学との共同研究に取り組み、各種コンテスト等に参加する。	A	A	A	A	A
		地歴公民	高	1)社会科研究同好会の活動との連携を深め、校外研修や茨城キリスト教大学との共同研究に取り組む。	—	—	—	—	E
進路・学習指導強化	各コースのカリキュラムが適切に編成され、実施されている。国公立大学合格者が 50 名を超えている。コースごとの進学実績数を設定し、目標が達成されている。大学入試新テストへの対応が完了している。学校として、英検(2 級以上)等受験の指導体制が確立している。	進路指導	高	1)日東駒専レベルの大学への公募推薦入試合格を目指す。	E	—	—	—	—
				2)MARCH レベルの大学への公募推薦入試合格を目指す。	—	B	—	—	—
				3)MARCH レベルの大学への公募推薦入試合格を目指す。(一貫 A・SG)	—	—	D	E	—
		学習指導	高	1)卒業生を囲む会を実施。(交通費実費＋謝礼 11137 円/2 人)	B	A	—	—	—
				2)卒業生を囲む会を実施。(交通費実費＋謝礼 11137 円/2 人)	—	—	A	A	D
				3)3 年国立特進クラスの人数を 60 名以上とし、国公立大学合格者数 30 名以上を目指す。	A	C	C	D	C
				4)3 年特進 SA クラスの人数を 30 名以上とし、国公立大学合格者数 20 名以上を目指す。	A	A	A	B	D
				5)特進 SA クラスはクラスの 1 割以上が旧帝大レベルの大学に合格する。	E	B	E	B	E
				6)ＩＣＴ教育実施のため、一部の教室に WI-FI とプロジェクターとスピーカーを設置する。(2017 年度)	E	A	—	—	—
		英語科	高	1)多読教材「SRA Reading Laboratory」を活用し、進学実績を向上させる。	D	D	C	C	—
				2)図書館に多読用の英語の本を置く。	—	C	C	C	—
		理科	中高	1)大学新テストへの対応、理系大学への進学実績向上のために、実験器具を整備し生徒に多くの実験・観察を体験させる。	A	B	E	C	B
		地歴公民	高	1)教科横断的な視点を導入した授業づくりを研究視察、実践（公開研究授業の実施等)、報告する。	—	—	—	—	C

マスタープラン	最終目標	担当部署		アクションプラン	2016	2017	2018	2019	2020
		1学年	高	1)社会第一線で活躍中の講師を招聘し、職業・大学への意識を高める講演会を実施する。	E	C	B	B	B
		2学年	高	1)社会第一線で活躍中の講師を招聘し、職業・大学への意識を高める講演会を実施する。	B	C	B	D	C
		管理職	中高	1)大学入試新テストの動向等を踏まえ、教科・分掌等の役割を明確化し適切に対処する。	D	C	C	B	B
				2)2020年度デジタル教育開始を目標にICT教育推進プロジェクトを発足させ、具体的検討に入る。	—	A	A	A	—
			中	3) ICT教育推進のため、電子黒板設置に合わせて教員分のipadを整備して授業に活用する。	—	—	—	A	A
				4) 教室にWi-Fi環境を整備して、生徒用ipad導入について検討する。	—	—	—	A	A
			高	5) 新学習指導要領および移行措置に対する具体的な検討と対策を構築する。	—	—	—	B	B
				6)教科指導、課外活動等でプログラミング教育を推進する。	—	—	—	B	B
教員等採用		管理職	中高	1)国際理解教育推進のため外国人教員を採用する。	A	A	—	—	—
【教師力強化】									
研修制度の充実	各種の研究会・研修会への参加およびその報告がなされ、それらの成果が授業等に活かされている。教科会が充実している。また、教師個人では各種資格試験に合格し、生徒への手本となり、更に指導力向上に繋がっている。特に、英検、漢検、数検などに合格する。この結果を入試広報で「教師力の高い学校」として使う。	聖書科	中高	1)キリスト教学校教育同盟の研修会に参加し、情報収集情報交換を積極的に行う。	E	C	C	D	—
		進路指導	高	1)予備校主催の研修に教員を派遣する。(受講料20,000円×5名)	E	E	C	B	—
		管理職	中高	1)アクティブラーニング、18歳選挙、大学入試新テストの研修及び説明会への積極的参加。	D	B	B	A	C
				2)全教員が高教研に加入し研修会や私学協会主催研修会に積極的に参加する。	B	C	C	C	C
				3)アクティブラーニングの教員対象講演会実施。	—	A	D	A	—
				4)学内外を繋ぎ効果的学習活動を創出する役割を担う、地域教育コーディネーター育成プログラムへ教員を派遣。(丹治教諭)	—	—	—	A	—
		地歴公民	高	1)教員の自己研鑽のため、日本私学研究所などで実施される研修会に参加する。10,000×3名	—	A	B	B	A
			中高	2)新学習指導要領に対応するため、新たに設置される「歴史総合」「地理総合」「公共」等の分析会やGIS活用技術を習得する研修会に参加する。	—	—	—	—	A

マスタープラン	最終目標	担当部署		アクションプラン	2016	2017	2018	2019	2020
		数学	中高	1)教員の自己研鑽のため、予備校などで実施される研修会に参加する。	—	B	B	C	B
		国語	中高	1)小論文指導を強化するために研修会に参加する。	—	C	C	C	C
管理職による面談実施（教員、新入生）		管理職	中高	1)全教員との面談を、年1回以上実施する。	D	D	D	—	—
				2)新入生全員と面接する。	E	—	—	—	—
				3)管理職による授業参観を実施する。(2016年度より一部実施)	C	C	C	B	B
				4)教員の勤務時間管理について検討を加え、必要に応じて教員面談を行い、教師力強化に繋げる。	—	—	—	—	B
【財政基盤安定化】									
入学者確保	2016年度：中110名、高300名、 2017年度：中110名、高310名、 2018年度：中110名、高320名、 ただし、年度ごとに達成度を点検し、目標数の再設定等を行う。同時に、各施策の達成状況を見ながら中学の募集定員140名の可能性を探る。	管理職	中高	1)入試制度を見直し、入学者数を確保する。	E	B	D	B	B
				2)カリキュラムを見直し、魅力ある学校づくりを推進する。	A	B	B	B	B
			中	1)中学技術でプログラミングの授業を取り入れ、他校に先行して魅力ある教育を実践する。	—	—	—	B	B
入試広報の充実	各種教育活動の成果を見て、広報材料として活用する。	入試広報	高	1)広報活動の資料などを作成する専門係を設ける。	E	E	E	E	E
		管理職	中高	1)人事配置・役割分担を明確にし、広報活動のより一層の充実を図る。	A	A	A	A	A
【生活環境の強化】									
施設設備整備	2015年度で校舎耐震化も完了する。14期中期経営計画で懸案となっている音楽室棟・部室等の改修・空調の更新を行う。15期中期経営計画で各校舎の外壁、防水等本格的な補強工事に入る。	事務室	高	1)国際教育館空調設備更新（20,000千円）2016年度希望	A	—	—	—	—
				2)3号館前部室を国際教育館下へ移設（5,000千円）2016年度希望	A	—	—	—	—
			中	3)保健室を改造し、面接室（3部屋）を設置する。2016年度希望	A	—	—	—	—
				4)6号館トイレ改修（5,531千円）2016年度希望	A	—	—	—	—
			中高	5)音楽室・中美術室改修4号館校舎建築と合わせて検討	E	E	E	—	—
			高	6)4号館空調設備更新　4号館校舎建築と合わせて検討	E	E	E	A	—
			中	7)5号館地階、中職員室空調設備更新	D	C	E	—	—
			高	8)ブラバン部室兼倉庫改築4号館校舎建築と合わせて検討	E	E	E	—	—
				9)7号館・大教室空調設備更新	E	E	E	B	—

マスタープラン	最終目標	担当部署		アクションプラン	2016	2017	2018	2019	2020
			高	10)大教室空調設備更新	—	—	—	—	B
			中	11)5 号館 1 階空調設備更新	E	E	E	E	B
			高	12)1 号館空調設備更新	E	E	E	E	B
				13)5 号館 2.3 階空調設備更新	E	E	E	E	E
			中	14)6 号館空調設備更新	E	E	E	E	E
				15)中職員室空調設備更新	—	—	E	E	B
				16)中学美術室・技術室は、7 号館 1 階を改造し新設する	—	—	—	A	—
			高	17)中学美術室・技術室を吹奏楽部活動の第二音楽室に改造する	—	—	—	A	—
				18)グループ学習やプレゼンに特化した、ラーニングコモンズを新設する。	—	—	—	A	—
		管理職	中高	1)新 4 号館校舎建築委員会を設置する。(2020 年度)	E	E	E	—	—
				2)新 4 号館校舎・音楽室棟建築のための建築委員会を設置し、具体的な検討に入る。	—	—	—	A	A
			高	3)ICT 教育のための Wi-Fi 環境（設備）を整備する。	—	—	E	C	A
				4)探究活動のためのラーニングコモンズの設置を検討し、2019 年度当初予算に計上する。	—	—	A	—	—
			中	5)中学生が活動できる体育施設の整備について、予算化を含めて具体的な検討をする。	—	—	E	—	—
			中高	6）中高生が活動できるグランドの整備について、新 4 号館等の建築と合わせて具体的に検討する。	—	—	—	E	E
【その他】									
ＰＴＡ・後援会・同窓会との連携強化	後援会との話し合いを密にし、活性化を図る。同窓会とのパイプをより確固たるものにする。	渉外部	高	1)PTA 会員の意識の向上を図る。(学年 PTA 出席率向上)	B	B	B	B	B
				2)PTA 活動の具体的実践に取り組む。(研修会充実・学園祭活性化)	B	B	B	B	B
				3)役員・理事との連絡を密にとり、円滑な運営を心がける。(理事会効率化)	B	B	B	B	B
				4)学校経営・学級経営を円滑にするために、教職員の PTA 活動に対する理解を深める。(相互連絡強化)	B	B	B	B	B

※評価　Ａ：90%以上達成　Ｂ：75%程度達成　Ｃ：50%達成　Ｄ：25%程度達成　Ｅ10%以下の達成

【中学校・高等学校】

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：宗教

マスタープラン	【教育力強化】建学の精神、教育目標の確認・実践
最終目標	建学の精神や教育目標が毎朝の礼拝や学年礼拝・集合礼拝等において確認、実践されている。また、建学の精神を生かして、ボランティア教育・活動が活発に行われている。同時に、キリスト教センターと連携しつつ、各教育活動と宗教教育との整合性等についても適宜、確認等が行なわれている。道徳教育についても学園・学校としての対応が完了している。
アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)建学の精神の理解と実践のために教員を研修会に派遣する。	【2016 年度】評価：C 全国聖書科研究集会（同志社）・キリスト教主義学校見学（横須賀学院）・関東地区聖書科研究集会（道徳教育と聖書の授業）に参加。 【2017 年度】評価：C 宗教部長が研修会等に参加した。 【2018 年度】評価：C 県外の研修ばかりなので参加することが難しかった。 【2019 年度】評価：C 県外の研修ばかりなので参加することが難しかった。 【2020 年度】評価：C コロナ禍の関係で研修が全面中止となったため参加することができなかった。
2)生徒対象の創立記念礼拝を実施し、建学の精神の確認と現代的な課題への取組。（道徳教育・ボランティア）	【2016 年度】評価：A 生徒の創立記念礼拝に卒業生をスピーカーに呼んで実施。さまざまなボランティアに参加。高文連のボランティア部会の事務局を本学園高校に置き、建学の精神の展開として、本県全体のボランティア活動の取り組みに貢献した。 【2017 年度】評価：A 生徒の創立記念礼拝にバットン学園総長をスピーカーに呼んで実施。さまざまなボランティアに参加。高文連のボランティア部会の事務局を本学園高校に置き、建学の精神の展開として、本県全体のボランティア活動の取り組みに貢献した。 【2018 年度】評価：B 創立記念礼拝は、学校行事として定着してきた。ユネスコスクールに認定され、国際理解教育・ボランティア活動にも積極的に取り組むようになった。今後、道徳教育と宗教教育の研究、教員の研修を実施していく必要性が高い。 【2019 年度】評価：B

※評価　A：90%以上達成　B：75%程度達成　C：50%達成　D：25%程度達成　E 10%以下の達成

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：宗教

	創立記念礼拝は、学校行事として定着してきた。国際理解教育・ボランティア活動にも積極的に取り組むようになった。 【2020 年度】評価：A 創立記念礼拝は、学校行事として定着してきた。建学の理念を活かすために、引き続きボランティア活動にも積極的に取り組ませたい。
3)キリスト教学校教育同盟の研修会に参加し、情報収集情報交換を積極的に行う。	【2018 年度】評価：D キリスト教学校教育同盟の初任者研修会に派遣しなかった。 【2019 年度】評価：D キリスト教学校教育同盟の初任者研修会に派遣しなかった。 【2020 年度】評価：D コロナ禍のため参加できなかった。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：地歴公民中高

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)平和教育の一環として、アンネ・フランク展を実施する。	【2017 年度】評価：E アンネ・フランク展の展示用キットの手配について、実施できる期間が当初の予定よりかなり短くなることが分かり、平和教育として有効活用することが難しくなったために中止することとした。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：国際教育

マスタープラン	【教育力強化】グローバル教育の推進（シオン版グローバル教育の構築）
最終目標	海外大学への進学者を毎年複数名(5 名以上)送り出す。また、海外姉妹校への短期留学者数が現在（2015 年度）以上となっている。さらに、ユネスコスクール参加が実現され、本校における各活動との関係が有機的に運営されている。教員の研修も充実している。
アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)研修の機会としても G.R.E.A.T Program（海外語学研修）の引率教員を増員する。50 万円×3 名　2016 年度～	【2016 年度】評価：A 文系と理系にコースが分かれており、それぞれにつく 2 名と諸々の問題に自由に対応できる 1 名がいることで引率業務は心強かった。見回りの負担なども軽減できるのでプラスの面が大きかった。研修という立場で学ぶ余裕も生まれるの

※評価　A：90%以上達成　B：75%程度達成　C：50%達成　D：25%程度達成　E 10%以下の達成

	で、次年度以降も継続して欲しい。 【2017 年度】評価：A 本年度は 1 年の特進クラスの担任にも参加してもらい、引率としてだけでなく、研修という意味合いがかなり強かった。本校の国際理解教育を理解するうえでも、この 1 名の存在は大きく、今後も是非 3 名体制で継続したい。 【2018 年度】評価：A 本年度も 1 年の特進クラスの担任に参加してもらった。ただ、3 名ではなく、2 名だったので、研修以上の働きをしてもらった。この形は今後も継続していただきたい。 【2019 年度】評価：A 本年度はSA の担任に参加してもらった。国際教育部員でもあったので、人間関係のトラブルなどにも素早く対応できた。しかしながら、教員研修という観点から考えると、できれば3 名を送りたい。 【2020 年度】評価：E ACU の担当者の変更や、プログラムの現状把握の意味も含め、3 名でしっかり現地との直接のやり取りをしながら視察・評価・検証を丁寧に実施予定であったが、コロナ禍のためオンラインプログラムに切り替え、派遣は中止となった。そこで、図らずも評価はEであるが、同じ状況（プログラムの検証など）は続くので、次年度以降も継続したい。
2)外部講師を招聘し講演会・研修会等を年 1 回開催する。 (S.G.A も踏まえ）5 万円＋交通費	【2016 年度】評価：A 米国大使館から広報官を派遣してもらい、40 分講演 20 分質疑応答の形で国際理解講演会を実施した。生徒たちの反応も良く、その後にGREAT Program に申し込んできた生徒もいたことから、予想以上の良い効果が出た。日程の調整ができればさらに良かった。次年度も継続したい。 【2017 年度】評価：A 今回は ACU を卒業し、日本の大学院を経て、4 月から就職する本校の卒業生に講師をお願いした。チャレンジすることの価値を改めて生徒たちに伝えられる良い内容だった。今後も継続して行っていきたい。 【2018 年度】評価：A 今回は外務省の高校生講座を利用して、アフリカ駐在の経験のある方に講演していただいた。年齢的にも生徒に近く、とてもよいお話をしてくださった。座談会も行うことができ、より内容の濃い時間となった。 【2019 年度】評価：E 本年度は講師を予定していた卒業生の都合が悪くなり急遽中止した。次年度以降は、開催時期を 5 月、6 月ごろにして、他の留学プログラムとの連動を意識しながら、内容や人選を行っていきたい。 【2020 年度】評価：E 本年度は、昨年度からの日程を変更していた矢先にコロナ禍で、講師を呼べず、その時はまだオンラインでの講演という切り替えができずに中止となってしまった。しかしながら、次年度は、最初からオンラインを基準に計画を立てて臨むつもりであるため、謝礼などの観点からもプランの継続を求めたい。

※評価　A：90%以上達成　B：75%程度達成　C：50%達成　D：25%程度達成　E 10%以下の達成

3)交流校が増えたためにAda・Byng 姉妹校短期留学の引率教員増員する　3名×35万円　2017年度～	【2017年度】評価：A Byng高校が加わって4回目の今回は、26名という大人数だったこともあり、3人体制が大きく助けになった。次回からは2週間になるため、内容の変化はあるものの、参加人数を考えるとやはり3名という体制は心強い。研修としての意味合いも十分にあることから、今後もこれを維持したい。 【2018年度】評価：A 今回は、2週間プログラムに変えた初年度で、いろいろなチャレンジの回となった。Ada高校との30周年記念やByng高校との姉妹校提携調印式など、さまざまなイベントがあったなか、3名という人数が最も活きたのは、最終日の前日に体調不良の生徒が出て、病院に連れて行ったり、延泊したりと、トラブルがあったにもかかわらず、3名でしっかり連携をとって滞りなく対応できたことである。次年度も是非継続したい。 【2019年度】評価：E 本年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、プログラム自体が中止となったが、事業としての価値が高いので、このまま継続をお願いしたい。 【2020年度】評価：E 昨年度に引き続き、コロナ禍を理由に中止した。しかしながら、状況が改善すれば引き続き、プランを継続していただきたい。
4)新しい国際交流関係構築に関係する調査等を行う。	【2018年度】評価：B ザンビアからの留学生の受け入れという新しいこと（実施は2019年度）を決めた。ただ、こちらからのアプローチではなく、向こうからだったので、評価は下げざるを得ない。今年度はHarding大学にアプローチしたい。 【2019年度】評価：A 日本旅行の教育研修に参加して、パースのプログラムを実地調査した。実際に行っている学校の話も聞くことができ、茨城県ではまだ実施している学校も少ないが、内容はとても充実したプログラムであり、今後積極的に実施の方向で考えたい。次年度は東南アジアを計画していると聞いており、本校の国際交流プログラムの新しい形を模索するうえで、この教育研修への参加は有意義である。 【2020年度】評価：A 直接、調査のために足を運ぶことはできなかったが、バーチャル留学をはじめとする、実際の行き来とは異なる形での国際交流の在り方について、かなり時間をかけて複数の業者を交えながら検討してきた。次年度はそれを実行していく段階であり、また併せて引き続きの検証検討が続く。

※評価　A：90%以上達成　B：75%程度達成　C：50%達成　D：25%程度達成　E 10%以下の達成

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：管理職中高

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)ユネスコスクールへの認可申請。	【2016 年度】評価：A 認可申請は完了している。認可時期については未定。
2)ユネスコスクール活動への積極的参加。	【2017 年度】評価：A 国際理解教育、ボランティア活動など積極的に参加した。 【2018 年度】評価：A 国際理解教育、ボランティア活動など積極的に参加した。 【2019 年度】評価：A 国際理解教育、ボランティア活動など積極的に参加した。 【2020 年度】評価：B コロナ禍のため、活動に制限があったが、書き損じハガキを集めてユネスコ協会に送るなどの活動を実施した。また、姉妹校とのバーチャル留学を実施した。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：英語科高校

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)英語科掲示板を設置する。生徒は掲示板を見ることで、英語科が生徒に求めている活動を知ることができる。	【2017 年度】評価：A 掲示板の設置は終了したが、生徒の移動導線上にないので、有効活用ができていない。今後も引き続き有効活用について検討するが、掲示板の設置は終了したので「終了」とする。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：英語科中高

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)校内標識を英語と日本語の 2 か国語表記とする。	【2017 年度】評価：A 2 か国語表記完了。

※評価　Ａ：90%以上達成　Ｂ：75%程度達成　Ｃ：50%達成　Ｄ：25%程度達成　Ｅ10%以下の達成

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：理科中高

マスタープラン	【教育力強化】中高一貫教育の充実
最終目標	生徒数は、安定的確保がなされている。また、入学した生徒の賜物を引き出し、伸ばす教育が実践されている。特に、英語教育が充実しており、地域社会から高い評価を得ている。
アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
サイエンス部（中高合同）の活動 1)国際オリンピック一次試験突破に向けた勉強会を行う。	【2016 年度】評価：C これまでは中学生を含めた勉強会ができなかったので、今年度は始めていきたい。そして、6 年間の一貫教育中でのオリンピック 1 次予選突破をねらいたい。 【2017 年度】評価：B 高校 3 年生を主として生物オリンピックの受験を行った。結果は突破できなかったが、次年度も継続していきたい。 【2018 年度】評価：E 理解力の乏しさや理系を考える生徒がそれほどおらず、勉強会は行えなかった。次年度はやり方を考えたい。 【2019 年度】評価：C なかなか中学生を交えた勉強会を開催できず、残念であった。しかし、化学チャレンジで奨励賞をいただくことができたので一歩前進した。 【2020 年度】評価：C コロナ禍で中学生との勉強会はできなかった。しかし、化学チャレンジについては継続して参加することができた。
2)ＤＮＡ抽出実験から太陽電池に関する実験など幅広い実験や気象観測を行い、各自の研究テーマを作る。そしてそれぞれの研究を筑波大や茨城大で行われている研究発表会で発表する。また、学生対象の研究論文へ投稿する。	【2016 年度】評価：A 昨年度は部員も増え、6 テーマ以上で活動をすることができた。また、発表も大学や企業主催の発表会で発表することができた。さらに、シンガポール大会での発表をできたことは素晴らしい経験であった。今年度はそれぞれの発表を国内外を問わず行っていきたい。今年度は学会への投稿論文を考えていきたい。 【2017 年度】評価：B 太陽電池などの研究ではないが、環境に関わる研究を行い各種発表を行うことができた。また、茨城大学工学部の協力を得ることができた。 【2018 年度】評価：B 茨城大学工学部や茨城キリスト教大学の連携が取れたおかげで、慶応大学での発表を行うことができた。 【2019 年度】評価：A DNA の実験については、昨年度は PCR の実験ができ非常に生徒の興味関心を得ることができた。次年度はアルコールなどの材料の入手が困難ではあるが、やれる範囲で生徒の興味関心を引く実験を開催したい。

※評価　Ａ：90%以上達成　Ｂ：75%程度達成　Ｃ：50%達成　Ｄ：25%程度達成　Ｅ10%以下の達成

	【2020 年度】評価：A コロナ禍で実験はあまり進まなかったが、それぞれが学校再開後、色々な発表会で多くの大学の先生に認められた発表を行うことができた。次年度も引き続き行う。
3) サイエンス部（中高合同）で、実験、観測、研究を行う。	【2017 年度】評価：C まずは計画から始めたい。なかなか、実行ができないのが現状である。 【2018 年度】評価：E 難しくないものから一緒に行いたいと考えている。現在は水ロケット。 【2019 年度】評価：C 一緒には活動ができないが、中学校でサイエンス部に入っていた生徒の入部が多くなった。この調子で合同実験を行いたい。 【2020 年度】評価：D コロナ禍で活動がほぼできなかった。次年度は行いたい。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　**部署名：**英語科中学

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1) 中学卒業時に 25%以上の生徒が英検準 2 級を取得し、英検 3 級は全員が取得する。	【2016 年度】評価：B 英検準 2 級は 32 名の生徒が合格しており、約 3 割の生徒が合格しているので、準 2 級の合格目標に関しては 100%達成している。また、2 級合格者は 7 名おり、準 1 級に合格した生徒も 1 名いる。 3 級については 119 名中 84 名合格で、約 7 割が合格している。 【2017 年度】評価：B 英検準 2 級は 32 名の生徒が合格しており、約 3 割の生徒が合格しているので、準 2 級の合格目標に関しては 100%達成している。また、2 級合格者は 5 名おり、3 級については 108 名中 75 名合格で、約 7 割が合格している。 【2018 年度】評価：B 英検準 2 級は 33 名の生徒が合格しており、約 37%の生徒が合格しているので、準 2 級の合格目標に関しては 100%達成している。また、2 級合格者は 5 名おり、3 級については 88 名中 70 名合格で、約８割が合格している。 【2019 年度】評価：B 英検準 2 級は 21 名の生徒が合格しており、約 34%の生徒が合格しているので、準 2 級の合格目標に関しては 100%達成している。また、2 級合格者は 5 名おり、3 級については 62 名中 50 名合格で、約８割が合格している。 【2020 年度】評価：B コロナ禍のため、年間 3 回実施のところ第 2 回目、3 回目の 2 回の実施となった。2 回分の合格者数は、準 2 級 20 名（80

※評価　Ａ：90%以上達成　Ｂ：75%程度達成　Ｃ：50%達成　Ｄ：25%程度達成　Ｅ10%以下の達成

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：英語科中学

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
	名中)、25%で目標を達成した。3級以上は49名（80名中）で約6割合格であった。次年度もまず一次試験合格に向け、継続して学習意欲を高めていきたい。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：英語科高校

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)高校卒業時に35%以上の生徒が英検2級以上を取得し、英検準2級は全員が取得する。	【2016年度】評価：D 本校では、英検受験を義務づけておらず、全員が英検受験をする環境ではない。また、英検は級によって試験時間が異なるなど、全員受験をするには不適である。今回、当アクションプランは中止とするが、引き続き、英検全員受験の可能性を模索していく方針である。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：進路指導高校

マスタープラン	【教育力強化】高大連携の推進
最終目標	茨城キリスト教大学との連携が強化され、茨城キリスト教大学受験者100名やDual-Degree（奨学金付き1名)、ICH科目履修の奨励が行われ、実績を上げている。また、英語教員も可能な限り、茨城キリスト教大学において講義などを受け、研修に努めている。
アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)茨城キリスト教大学見学会を実施する。	【2016年度】評価：D 高校と大学の行事や入試関係資料の作成の準備期間の問題で実施には至らなかった。 次年度に向けて、対象学年や時間を調整して実施を目指したい。 【2017年度】評価：D 昨年同様、実施には至らなかった。しかし、高大連携としてこの見学会を実施できるかどうか議論の余地があるように思う。次年度はそこも含め検討したい。 【2018年度】評価：D 実施には至らなかった。 本校の行事予定の中で可能な時期と、大学側との調整が課題であると思う。また、出来れば大学のオープンキャンパスとの違いなども検討していきたい。

※評価　A：90%以上達成　B：75%程度達成　C：50%達成　D：25%程度達成　E 10%以下の達成

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：進路指導高校

	【2019 年度】評価：A 1 学年が、茨城キリスト教大学キャンパスツアーを実施した。 【2020 年度】評価：D コロナ禍等もあり、大学そのもので対面式オープンキャンパスがほぼ開催されなかった。そのため本校単独でも実現できなかったが、オンライン説明会への参加を奨励した。校内での説明会も実施し、またＰＴＡや学年でも毎年企画しており、進路での見学会は発展的解消としたい。
2)校内で茨城キリスト教大学説明会（大学入試広報）を実施する。	【2017 年度】評価：D 上記 1)同様、実施に至らなかった。次年度は特別推薦説明会等で大学の入試広報との連携し、本校生に向けての説明会の実施を目指したい。 【2018 年度】評価：D 1)と合わせて同日に実施するのが望ましいように思うが、3 年生に限らず１，２年生も参加できるような日程、時間を検討していきたい。 【2019 年度】評価：D 大学と連絡は取りあったが、高校側の日程的都合がつかず、実施できなかった。 【2020 年度】評価：A 大学入試広報部と連携して実施し、多くの生徒が参加した。
3)茨城キリスト教大学の先生から講話等のご協力をいただき、大学における学問をイメージさせる。	【2019 年度】評価：A 1 学年が、学年主催で行った。 【2020 年度】評価：A １年職業別ガイダンス・2 年模擬授業ガイダンスでそれぞれほぼすべての学部学科の先生の派遣を依頼し、模擬授業を行った。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：理科高校

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)サイエンス部を中心に、茨城キリスト教大学との共同研究に取り組み、各種コンテスト等に参加する。	【2016 年度】評価：A もみ殻の再利用法の研究にてアサヒビール主催若者育成塾、化学交流会、芝浦工業大学での化学発表会での優秀な成績を修めることができた。今年度も引き続き研究のサポートや助言をお願いしている。

※評価　Ａ：90%以上達成　Ｂ：75%程度達成　Ｃ：50%達成　Ｄ：25%程度達成　Ｅ10%以下の達成

	【2017 年度】評価：A もみ殻の研究を生命科学系学会で発表、東京理科大学主催の坊ちゃん科学論文コンテストに論文を投稿したり、武田科学財団より補助金をいただいたりと前進することができた。 【2018 年度】評価：A もみ殻の研究の継続が順調に進み、茨城大学や茨城キリスト教大学と非常に良い連携が取れている。次年度以降は他の研究内容を考えている。慶応大学の研究発表会に参加できたのはとても良かった。 【2019 年度】評価：A 研究の中の実験で、高校ではできない器具などを使った実験をサポートしてもらった。また、メールなどを介して実験のアドバイスをいただけたのは非常によかった。 【2020 年度】評価：A コロナ禍であったが、zoom などによる指導により、原子力財団の探究活動支援事業や高分子学会主催の未来塾で優秀な賞を取れるほどであった。部員数も増加したので、次年度はさらに活動を活発化させたい。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　**部署名：**地歴公民高校

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1) 社会科研究同好会の活動との連携を深め、校外研修や茨城キリスト教大学との共同研究に取り組む。	【2020 年度】評価：E コロナ禍で校外研修は実施できなかった。今後は工夫を図りながら、着実に高大連携を深めていける道を模索していきたい。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　**部署名：**進路指導高校

マスタープラン	【教育力強化】進路・学習指導強化
最終目標	各コースのカリキュラムが適切に編成され、実施されている。国公立大学合格者が 50 名を超えている。コースごとの進学実績数を設定し、目標が達成されている。大学入試新テストへの対応が完了している。学校として、英検(2 級以上)等受験の指導体制が確立している。
アクションプラン	**実行結果（達成状況も踏まえる）**
1) 日東駒専レベルの大学への公募推薦入試合格を目指す。	【2016 年度】評価：E 現状、日東駒専レベルの大学を希望している生徒は、指定校推薦を利用する生徒が多く、公募制推薦を利用する生徒が存在しない。

※評価　A：90%以上達成　B：75%程度達成　C：50%達成　D：25%程度達成　E 10%以下の達成

2)MARCH レベルの大学への公募推薦入試合格を目指す。	【2017 年度】評価：B ＭＡＲＣＨレベルで指定校枠のない大学への進学希望者が一貫Ａクラスや大進クラスに在籍しており、担任をはじめ、学年の協力もあり合格者を出すことができた。
3)MARCH レベルの大学への公募推薦入試合格を目指す。 （一貫 A・SG）	【2018 年度】評価：D 今年度はＭＡＲＣＨレベルへの推薦希望者が一貫Ａ、大進にいなかった。学力レベルの向上や、推薦への指導など担任、教科担当者がかかわる中で生徒の希望に沿った指導を進めていきたい。 【2019 年度】評価：E 今年度は明治にＡＯで１名、立教に公募制推薦で１名がそれぞれ特進から合格できたが、一貫Ａ、ＳＧには公募推薦入試希望者がいなかった。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　**部署名：**学習指導高校

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)卒業生を囲む会を実施。（交通費実費＋謝礼 11,137 円/2 人）	【2016 年度】評価：B 昨年度卒業した坪和（東北大）にお願いして実施、内容は良かったが複数の卒業生がいるとよかった。 【2017 年度】評価：A 昨年度の卒業生を２名呼び語ってもらった。在校生から質問が多数出てよかった。
2)卒業生を囲む会を実施。（交通費実費＋謝礼 11,137 円/2 人）	【2018 年度】評価：A 卒業生からの話を聞いて、質問もたくさんすることができ良かった。 【2019 年度】評価：A 卒業生からの話で向上心が出てくるなど非常に有意義であった。 【2020 年度】評価：D 今年度はコロナ禍で卒業生を呼ぶことができなかったが、年度末など卒業生が学校に来た時に話を聞いてやる気になった生徒が多くみられたので、次年度はしっかりと実施したい。
3)3 年国立特進クラスの人数を 60 名以上とし、国公立大学合格者数 30 名以上を目指す。	【2016 年度】評価：A 目標は達成されたが、明秀日立に並ばれたため、次年度以降は合格者数を５０名以上目指す。 【2017 年度】評価：C 在籍者数は 40 名と達成できなかったが合格者数は達成できた。 【2018 年度】評価：C 在籍者は 33 名で非常に少ない人数で成績がなかなか上がらず、苦戦した。次年度も 33 名と厳しいが合格者は今年度よりは増やしたいと考える。

※評価　Ａ：90%以上達成　Ｂ：75%程度達成　Ｃ：50%達成　Ｄ：25%程度達成　Ｅ10%以下の達成

	【2019 年度】評価：D 在籍者が 30 名ほどで中でも成績が低い生徒がクラスの 3 分の１いる中での国立合格の 30 名以上は非常に難しい。がしかし、様々な手段を駆使して合格者を増やしていきたいと考えている。 【2020 年度】評価：C 特進クラスの生徒は 47 名と昨年よりは多く在籍した。難関大学の合格はできなかったが学年全体では 57 名の合格が出たのは先生方の努力によるところである。このまま、継続していきたい。
4)3 年特進 SA クラスの人数を 30 名以上とし、国公立大学合格者数 20 名以上を目指す。	【2016 年度】評価：A 目標は達成されたが、明秀日立に並ばれたため、次年度以降は合格者数を３０名以上目指す。 【2017 年度】評価：A 在籍数・合格者とも達成された。 【2018 年度】評価：A 在籍数・合格者とも達成された。 【2019 年度】評価：B 在籍数は目標を達成した。国立合格者の数は達成できなかった。しかし、難関大学の合格があったので少しは目標に近づけたのではないかと考えている。今年度、頑張って目標達成したい。 【2020 年度】評価：D 在籍数は 26 名、国立大学の合格者は 14 名とかなり低い状態であった。やはり、高 1 からの特別な指導が必要であると考える。次年度も厳しい状態ではあるが、最善を尽くしたい。これを機に、中学からの指導を行うために、春の講習などに力をいれて年数をかけて合格者を輩出していきたい。
5)特進 SA クラスはクラスの 1 割以上が旧帝大レベルの大学に合格する。	【2016 年度】評価：E 旧帝大 1 割合格は達成できなかった。難関大指導を強化して達成したい。 【2017 年度】評価：B 前年度に比べると難関大学に進学する人数が増えたが旧帝大レベルにはあと少しである。 【2018 年度】評価：E 旧帝大 1 割は合格できなかった。難関大指導を低学年から行う必要がある。 【2019 年度】評価：B 前年度に比べると難関大レベルに合格した。東京大学への挑戦もあり、非常に活発な受験活動を行うことができた。 【2020 年度】評価：E 前年度に比較すると、旧帝大レベルへの挑戦はできたが全く合格者がでなかった。しっかりした指導をする必要がある。

※評価　Ａ：90%以上達成　Ｂ：75%程度達成　Ｃ：50%達成　Ｄ：25%程度達成　Ｅ10%以下の達成

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：学習指導高校

6) ＩＣＴ教育実施のため、一部の教室にWI-FIとプロジェクターとスピーカーを設置する。(2017年度)	【2016年度】評価：Ｅ 他校の動きをみると本校の導入が遅れては、明らかに生徒募集に影響が出ると思われるので次年度には達成することが急務である。 【2017年度】評価：Ａ 各設備は設置された。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：英語科高校

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)多読教材「SRA Reading Laboratory」を活用し、進学実績を向上させる。	【2016年度】評価：Ｄ 使用したクラス生徒はまだ大学受験しておらず、「進学実績の向上」という評価はできない。一部クラスで実施し、アンケートを取るなどして、生徒からの評価を調べた。数値では表せないが、生徒の評価は高く、それを受けて使用するクラスも増えている。さらに活用していきたい。 【2017年度】評価：Ｄ 使用したクラス生徒はまだ大学受験しておらず、「進学実績の向上」という評価はできない。 【2018年度】評価：Ｃ 使用したクラスの大学入試センター試験英語の受験結果は概ね良好であった。さらに、英語を用いてAO入試や推薦入試で大学に進学した生徒も例年よりも多かった。しかし、英語については様々な方法で教育活動を行っており、今回の結果が「SRA Reading Laboratory」によるものであるかは不明である。次年度は、オーストラリア教室に設置し、多くの生徒がアクセスできるようにする予定である。 【2019年度】評価：Ｃ 生徒は電子図書館で英語の本を読むことができるようになった。 使用したクラスの大学入試センター試験英語の受験結果は概ね良好であった。しかし、英語については様々な方法で教育活動を行っており、今回の結果が「SRA Reading Laboratory」によるものであるかは不明である。
2)図書館に多読用の英語の本を置く。	【2017年度】評価：Ｃ 多読用の英語の本を購入し続けている。さらに冊数が必要。具体的にどのように活用するのか計画を立て、有効活用していく必要がある。 【2018年度】評価：Ｃ 多読用の英語の本を購入し続けている。さらに冊数が必要。具体的にどのように活用するのか計画を立て、有効活用していく必要がある。

※評価　Ａ：90%以上達成　Ｂ：75%程度達成　Ｃ：50%達成　Ｄ：25%程度達成　Ｅ10%以下の達成

	【2019 年度】評価：C 生徒は電子図書館で英語の本を読むことができるようになった。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：理科中高

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)大学新テストへの対応、理系大学への進学実績向上のために、実験器具を整備し生徒に多くの実験・観察を体験させる。	【2016 年度】評価：A 昨年度は高校生中心に実験をおこなうことができた。今年度は多くの高校の生徒や中学生にも実践的な体験をさせたい。 【2017 年度】評価：B DNA 組み換え実験などは普通に行うことができるようになった。次年度はさらに発展させた実験を考えていきたい。 【2018 年度】評価：E 今年度はオートクレーブが壊れてしまい、DNA の実験ができなかった。次年度はもっと深い遺伝子実験を行いたいと計画している。 【2019 年度】評価：C 細かい器具などの整備をすることができ、DNA の新たな実験をすることができた。しかし、まだ不足しているものもあるので少しずつ増やしていきたい。 【2020 年度】評価：B 原子力財団や中谷医工より奨励金をいただき、少しずつ器具を整備できたことは非常によかった。次年度も引き続き、がんばりたい。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：地歴公民高校

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)教科横断的な視点を導入した授業づくりを研究視察、実践（公開研究授業の実施等）、報告する。	【2020 年度】評価：C 教科のほうで公開授業を実施し、2022 年度から始まる総合科目の視点に立った授業づくりを実践した。公開授業は示唆に富む内容であり、その後の教科会議でフィードバックを行った。

※評価　A：90%以上達成　B：75%程度達成　C：50%達成　D：25%程度達成　E 10%以下の達成

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：1学年高校

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)社会第一線で活躍中の講師を招聘し、職業・大学への意識を高める講演会を実施する。	【2016年度】評価：E 今年度も検討したが、親子進路講演会では、進路指導上タイムリーな内容を講演できる講師をお願いした。講演会が何度もできるなら必要であるが、授業時間も確保もしなければならず、限られた講演会の回数では、毎年実施できるとは限らない。毎年親子進路講演会は実施するので、アクションプランではなく、講師の選択方法と考えるべきである。 【2017年度】評価：C 生徒の実態、また、保護者からの要望に合わせた講演会・講話を実施した。ベネッセやさんぽうなどの進路情報関連企業からの講師派遣に加え、キリスト大学キャリア支援センター、卒業生(現役大学生)は、生徒にとってより身近な存在で話を受け入れやすく、好評だった。このような講演・講話は単発ではなく、月１回程度の割合いで時間を確保できると、より進路意識を高めることができると思う。 【2018年度】評価：B 今年度から課題研究の授業が一貫ＳＡクラスと高入特進ＳＧで始まり、課題研究講演会を社会第一線で活躍中の講師を招聘して、年に７回実施した。そのため、該当クラスは十分に達成できたと考えられるが、一方では該当していないクラスでは聴けなかったのが残念である。しかし、次年度の１年生は全クラスで課題研究の授業があるので改善されると思います。学年全体では、進路講演会で茨城大学アドミッションセンター長で理学部教授でもある折山剛氏をお招きし、講演していただいた。大変内容もよく講評であった。 【2019年度】評価：B 探究の時間を使って、年間8回の課題研究講演会が実施された。社会第一線で活躍中の講師を招聘し、生徒は興味深い話を聞くことができた。今年度は全クラスの生徒が講演会に参加した。 さらに職業・大学への意識を高めるには、事前指導・事後指導も充実させたい。 【2020年度】評価：B 文理選択に向けての親子進路講演会（マイナビ）に加え、探究の時間には地域で活躍する方々を招いての講話や企業インターン課題研究など、コースに応じた内容で実施した。保護者や教員以外の大人から社会について、働くことについて話を聞けたことは、生徒にとって非常によい刺激となった。

※評価　Ａ：90%以上達成　Ｂ：75%程度達成　Ｃ：50%達成　Ｄ：25%程度達成　Ｅ10%以下の達成

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：２学年高校

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)社会第一線で活躍中の講師を招聘し、職業・大学への意識を高める講演会を実施する。	【2016 年度】評価：B ＰＴＡ親子進路講演会で、河合塾英語科講師に来ていただき、英語学習法・英語学習の意義・大学入試に対応できる力の養成法などをお話しいただいた。（ただし、予算は後援会より出していただいた。） ＰＴＡでなく、対象を生徒のみに絞って依頼すると論点が明確になったと反省している。 【2017 年度】評価：C ３月のＰＴＡ親子進路講演会では河合塾英語科講師を招いたが、受験生としての心構えや入試全般についてなど、一般的な内容の講演依頼となってしまった。医師として活躍している卒業生を講師として招きたかったが、実現できなかった。 【2018 年度】評価：B センター試験最後の学年のため、親子進路講演会等では、現役合格をより意識させるような内容を依頼した。保護者からは、卒業生がどのような分野（職業）で活躍しているかを知りたいとの要望があったが、日程調整等が難しかった。 【2019 年度】評価：D ＳＡ・特進クラスは課題研究の一環で講演を聞く機会があったが、３月に予定されていた親子進路講演会ではこれからの社会がどのような人材を求めているかについてお話いただくはずでしたが、コロナウイルス感染症の影響で休校になってしまったため、中止になってしまった。 【2020 年度】評価：C 　１０月に予定していた親子進路講演会は新型コロナの影響で保護者のみの講演会になってしまったが、３月の親子進路講演会ではマイナビ講師を招き、「社会で求められる力」と題して、社会がどのような人材を求めているかについて話していただいた。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：管理職中高

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)大学入試新テストの動向等を踏まえ、教科・分掌等の役割を明確化し適切に対処する。	【2016 年度】評価：D 大学入試新テストの全容が明らかでないこともあり、全教職員への紙面での情報提供にとどまってしまい、教科・分掌の役割の明確化までは至らなかった。 【2017 年度】評価：C

※評価　Ａ：90%以上達成　Ｂ：75%程度達成　Ｃ：50%達成　Ｄ：25%程度達成　Ｅ10%以下の達成

	大学入試新テストの全容が明らかではないが、英語については4技能対策に取り組んだ。 【2018年度】評価：C 大学入試新テストの全容が明らかではないが、英語については4技能対策に取り組んだ。 ポートフォリオについても取り組み始めた。 【2019年度】評価：B 英語の民間テストへの対応等、進路指導部や英語科が中心となり取り組んだ。更に2学年を中心にポートフォリオについても取り組んだ。今後も大学入試新テスト（大学入学共通テスト）の動向も踏まえ継続して取り組む。 【2020年度】評価：B 英語の民間テストへの対応等、進路指導部や英語科が中心となり取り組んだ。今後も大学入試新テスト（大学入学共通テスト）の動向も踏まえ継続して取り組む。
2)2020年度デジタル教育開始を目標にICT教育推進プロジェクトを発足させ、具体的検討に入る。	【2017年度】評価：A 2018年度新入生全員にタブレットを配付することや、電子黒板の段階的導入を決定した。 【2018年度】評価：A 主要教室全てに電子黒板を設置。1年生全員にタブレットを配付し、ICT教育推進委員会で利用方法について検討している。2019年度には全教員にタブレットの配付を決定。 【2019年度】評価：A 中高とも常勤、非常勤を問わず電子黒板やipadを授業で活用している。年度末のコロナウイルス感染拡大阻止のための自宅学習期間がオンライン授業を行わざるを得ない状況も推進の要因となった。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　**部署名：**管理職中学

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
3) ICT教育推進のため、電子黒板設置に合わせて教員分のipadを整備して授業に活用する。	【2019年度】評価：A ほとんどの教師がiPadと電子黒板を使って授業を行っている。 【2020年度】評価：A 教師は、iPadと電子黒板を使って授業を行っているが、生徒１人１台タブレットが実現したのでさらに授業等で活用する。
4) 教室にWi-Fi環境を整備して、生徒用ipad導入について検討する。	【2019年度】評価：A 2020年度に向け、国のGIGAスクール構想の補助金を使い、生徒用iPadを全員分導入する方向で検討してきた。 【2020年度】評価：A 2020年度の国のGIGAスクール構想の補助金を使い、生徒用iPadを全員分導入した。

※評価　Ａ：90%以上達成　Ｂ：75%程度達成　Ｃ：50%達成　Ｄ：25%程度達成　Ｅ10%以下の達成

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：管理職高校

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
5）新学習指導要領および移行措置に対する具体的な検討と対策を構築する。	【2019 年度】評価：B ICT 教育、総合的な探究の時間、アクティブラーニングについてはすでに取り組んでいる。 【2020 年度】評価：B 教育課程表について現在検討している。
6)教科指導、課外活動等でプログラミング教育を推進する。	【2019 年度】評価：B 1 年生全員に対して情報の授業でプログラミングを扱っている。 【2020 年度】評価：B 1 年生全員に対して情報の授業でプログラミングを扱っている。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：管理職中高

マスタープラン	【教育力強化】教員等採用
最終目標	
アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)国際理解教育推進のため外国人教員を採用する。	【2016 年度】評価：A 常勤講師１名、第２種講師１名を採用することができた。 【2017 年度】評価：A 常勤講師１名を採用することができた。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：聖書科中高

マスタープラン	【教師力強化】研修制度の充実
最終目標	各種の研究会・研修会への参加およびその報告がなされ、それらの成果が授業等に活かされている。教科会が充実している。また、教師個人では各種資格試験に合格し、生徒への手本となり、更に指導力向上に繋がっている。特に、英検、漢検、数検などに合格する。この結果を入試広報で「教師力の高い学校」として使う。

※評価　A：90%以上達成　B：75%程度達成　C：50%達成　D：25%程度達成　E 10%以下の達成

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)キリスト教学校教育同盟の研修会に参加し、情報収集情報交換を積極的に行う。	【2016 年度】評価：E 研修会はほぼ県外で開かれるため参加の調整が難しかった。夏期休業中に行われた「聖書科研究集会」には参加できたが、他の研修会にも積極的に参加できるよう努めたい。 【2017 年度】評価：C 研修会はほぼ県外で開かれるため参加の調整が難しかった。道徳の教科化についてはキ同盟から情報を得た。次年度（２０１８年度）に茨キリにおける聖書科道徳科のマトリックスを作成予定。 【2018 年度】評価：C 研修会はほぼ県外で開かれるため参加の調整が難しかった。 【2019 年度】評価：D 研修会はほぼ県外で開かれるため参加の調整が難しかった。「聖書科研究集会」も学内行事と重なり、参加が難しかった。他の研修会にも積極的に参加できるよう努めたい。 【2020 年度】評価：C コロナ禍で研修会はほぼ中止となった。「聖書科研究集会」も学内行事と重なり、ＺＯＯＭでも参加が難しかった。他の研修会にも積極的に参加できるよう努めたい。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　**部署名：**進路指導高校

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)予備校主催の研修に教員を派遣する。（受講料 20,000 円×5 名）	【2016 年度】評価：E 他の校務との兼ね合いで、各教員が時間的に研修に参加することができなかった。 研修希望の教員にできるだけ協力することで参加できる環境を作りたい。 【2017 年度】評価：E 昨年同様、派遣することができなかった。 各教員の持ち時間や時間割の関係で調整がしづらい部分をどのように改善することができるかが課題であると思う。 【2018 年度】評価：C 新テスト実施に向けて、3 教科（英・国・数）だけではあるが参加することができた。次年度は他の教科も参加できるように調整していきたい。 【2019 年度】評価：B 3 名の教員が予備校主催の研修（今年度は Web 上で受講）に参加した。

※評価　Ａ：90%以上達成　Ｂ：75%程度達成　Ｃ：50%達成　Ｄ：25%程度達成　Ｅ10%以下の達成

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：管理職中高

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)アクティブラーニング、18 歳選挙、大学入試新テストの研修及び説明会への積極的参加。	【2016 年度】評価：D アクティブラーニングについては、管理職による研修にとどまった。２０１７年４月に全教員研修会開催予定。 【2017 年度】評価：B アクティブラーニング、18 歳選挙の研修会に参加している。また、他校視察も実施している。 【2018 年度】評価：B 積極的にアクティブラーニングを推奨し、校内でアクティブラーニングを行っている授業を公開し、教員に積極的に呼びかけている。 【2019 年度】評価：A アクティブラーニングについては、動画サイト（Find!アクティブラーナー）を活用している。また、公開授業を開き教員同士が日々研究している。大学入試新テスト（大学入学共通テスト）や 18 歳選挙については、積極的に外部からの情報を収集することを継続する。 【2020 年度】評価：C アクティブラーニングについては、動画サイト（Find!アクティブラーナー）を活用している。大学入試新テスト（大学入学共通テスト）や 18 歳選挙については、コロナ禍のため研修会が中止となったものもあり、参加数は少なかった。
2)全教員が高教研に加入し研修会や私学協会主催研修会に積極的に参加する。	【2016 年度】評価：B ３３名が高教研に加入し、高教研や私学協会主催の研修会および予備校主催の研修会にも参加している。 【2017 年度】評価：C ２６名が高教研に加入し、高教研や私学協会主催の研修会および予備校主催の研修会にも参加している。昨年よりも加入者が減少してしまっている。積極的に参加を呼び掛けたい。 【2018 年度】評価：C ２９名が高教研に加入し、高教研や私学協会主催の研修会および予備校主催の研修会にも参加している。積極的に参加を呼び掛けたい。 【2019 年度】評価：C ２５名が高教研に加入し、高教研や私学協会主催の研修会および予備校主催の研修会にも参加している。昨年よりも加入者が減少してしまっている。積極的に参加を呼び掛けたい。 【2020 年度】評価：C ２２名が高教研に加入した。コロナ禍のため高教研主催の研修会が中止またはオンラインでの開催が主となり、例年

※評価　Ａ：90%以上達成　Ｂ：75%程度達成　Ｃ：50%達成　Ｄ：25%程度達成　Ｅ10%以下の達成

	ほど参加できなかった。
3)アクティブラーニングの教員対象講演会実施。	【2017 年度】評価：A 4 月に講師を招き講演会を実施した。 【2018 年度】評価：D 講演会の実施はなかったが、「Find!アクティブラーナー」を導入し、いつでも研修できるようにした。 【2019 年度】評価：A 動画サイト（Find!アクティブラーナー）を活用している。また、校内での公開授業を推進し、教員研修の機会とする。
4)学内外を繋ぎ効果的学習活動を創出する役割を担う、地域教育コーディネーター育成プログラムへ教員を派遣。（丹治教諭）	【2019 年度】評価：A 島根大学の「地域教育魅力化コーディネーター養成プロフラム」を修了し、地域教育魅力化コーディネーターの資格を取得した。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　**部署名：**地歴公民高校

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)教員の自己研鑽のため、日本私学研究所などで実施される研修会に参加する。10,000×3 名	【2017 年度】評価：A 各種予備校などの教員研修会を中心に教員を派遣した。新教育課程や大学新テストに対応するため、教員向けの研修会には今後も積極的に参加していきたい。 【2018 年度】評価：B 昨年度に引き続き、高教研や予備校などの研究協議会、研修会などに教員を派遣した。今後も積極的に参加していきたい。 【2019 年度】評価：B 昨年度に引き続き、高教研や予備校などの研究協議会、研修会などに教員を派遣した。2022 年度より新学習指導要領の施行が始まるので、新教育体制に備えるためにも、今後も積極的な参加を進めたい。 【2020 年度】評価：A 昨年度に引き続き、予備校などの研究協議会が実施する研修会などに教員が参加した。2022 年度より新学習指導要領の施行が始まるので、新教育体制に備えるためにも、今後も積極的に参加する。

※評価　A：90%以上達成　B：75%程度達成　C：50%達成　D：25%程度達成　E 10%以下の達成

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：地歴公民中高

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
2)新学習指導要領に対応するため、新たに設置される「歴史総合」「地理総合」「公共」等の分析会やGIS活用技術を習得する研修会に参加する。	【2020年度】評価：A 昨年度に引き続き、予備校などが実施する新科目に向けた研修会に教員が参加した。2022年度より新学習指導要領の施行が始まるので、新教育体制に備えるためにも、今後も積極的に参加する。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：数学中高

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)教員の自己研鑽のため、予備校などで実施される研修会に参加する。	【2017年度】評価：B 今年度は、３名が研修会に参加することができた。次年度以降も交代で全員が参加できるように努力したい。 【2018年度】評価：B 今年度は、２名が研修会に参加することができた。新テスト導入まであと１年となる次年度は指導方法の研鑽だけでなく、新テストについての情報収集も含めた知識の習得のための研修として参加できるように努力したい。 【2019年度】評価：C Classiが導入され、2年ほどが経過しているが、どのような利用のしかたがあるのか研修会がベネッセなどを中心に開催されている。本校も申し込みをしたが、申し込みが多数あり、今年度は参加できなかった。次年度は参加したいと考える。 【2020年度】評価：B タブレットの導入により，生徒各々の家庭学習状況を把握することが容易にできるようになり，学力向上につなげることができようになった。今後も継続して更なる向上を図っていくべきであると考える。

※評価　Ａ：90%以上達成　Ｂ：75%程度達成　Ｃ：50%達成　Ｄ：25%程度達成　Ｅ10%以下の達成

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：国語中高

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)小論文指導を強化するために研修会に参加する。	【2017 年度】評価：C 小論文指導の研修会には参加できなかったが、アクティブラーニング及び教科指導の研修会に参加し、有意義な学びができた。次年度も国語科としての指導力を高めるために継続する。 【2018 年度】評価：C 小論文指導の研修会に今年度は教員を派遣することができた点は良かった。小論文の研修会の意義は最新の大学受験の動向・トレンドを知ることであり、毎年参加することに意味がある。今後も派遣を続け、教員内での知識の共有を図っていきたいと考える。 【2019 年度】評価：C 小論文指導の研修会に今年度も 1 名参加することができた。小論文のトレンドは毎年度変わるため今後も継続的に参加することが必要と考える。特に次年度は大学入試改革による受験の傾向がどのようになるのかの予測が難しい。このような研修会の機会は国語科だけでなく学校としても必須の知識になると思われる。 【2020 年度】評価：C 小論文指導は国語科だけではなく、全教員で対応しなければ生徒をよりよい方向へ導くことができない。今年度は探究の時間に各担任主導でオンラインの講演会を受けたり、動画を見せたりするなど、各教員の意識も高まったと思われる。コロナ禍が収束すれば、研修会へも参加する。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：管理職中高

マスタープラン	【教師力強化】管理職による面談実施（教員、新入生）
最終目標	
アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)全教員との面談を、年 1 回以上実施する。	【2016 年度】評価：D 今年度採用された教員（含：第２種講師）の授業参観を実施し面談した。また、それ以外の教員との面談も実施したが、全教員との面談までには至らなかった。 【2017 年度】評価：D 昨年同様、今年度採用された教員（含：第２種講師）の授業参観を実施し面談した。また、それ以外の教員との面談も実施したが、全教員との面談までには至らなかった。

※評価　Ａ：90%以上達成　Ｂ：75%程度達成　Ｃ：50%達成　Ｄ：25%程度達成　Ｅ10%以下の達成

	【2018 年度】評価：D 昨年同様、今年度採用された教員（含：第２種講師）の授業参観を実施し面談した。また、それ以外の教員との面談も実施したが、全教員との面談までには至らなかった。
2)新入生全員と面接する。	【2016 年度】評価：E 新入生の授業参観に変更し、中高とも第１学年全クラスの授業参観を実施した。
3)管理職による授業参観を実施する。(2016 年度より一部実施)	【2016 年度】評価：C 中学、高校とも第１学年に関しては全クラス授業参観を実施したが、それ以外の学年については全クラス実施には至らなかった。 【2017 年度】評価：C 全クラスの授業参観はできなかったが、ICT 教育やアクティブラーニング実施に向けて多くのクラスの授業参観を実施した。 【2018 年度】評価：C 全クラスの授業参観はできなかったが、ICT 教育やアクティブラーニング実施に向けて多くのクラスの授業参観を実施した。 【2019 年度】評価：B 校長を中心に多くのクラスの授業参観を行い、クラスの様子や ICT 機器の活用を確認した。 【2020 年度】評価：B コロナ対応に追われたが、校長を中心に多くのクラスの授業参観を行い、クラスの様子や ICT 機器の活用を確認した。
4)教員の勤務時間管理について検討を加え、必要に応じて教員面談を行い、教師力強化に繋げる。	【2020 年度】評価：B 教職員に対して機会あるごとに勤務時間について呼びかけ、必要に応じて個別に面談を実施し、仕事の効率化を意識づけた。

※評価　Ａ：90%以上達成　Ｂ：75%程度達成　Ｃ：50%達成　Ｄ：25%程度達成　Ｅ10%以下の達成

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：管理職中高

マスタープラン	【財政基盤安定化】入学者確保
最終目標	2016 年度：中 110 名、高 300 名、2017 年度：中 110 名、高 310 名、 2018 年度：中 110 名、高 320 名、2019 年度：中 90 名、高 290 名、 2020 年度：中 90 名、高 290 名、 ただし、年度ごとに達成度を点検し、目標数の再設定等を行う。同時に、各施策の達成状況を見ながら中学の募集定員 140 名の可能性を探る。
アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1) 入試制度を見直し、入学者数を確保する。	【2016 年度】評価：E 入試制度の見直しについては、中学では適性検査型入試の導入と入試日程の変更、高校では３教科判定の導入を実施したが、どちらも入学者数の確保には至らなかった。 【2017 年度】評価：B 英検、漢検、数検などの民間資格や、中学時の課外活動など入試の点数以外も合否判定資料とすることを各中学校に伝えることにより受験者数、入学者数ともに増加した。 【2018 年度】評価：D 昨年同様の制度で募集したが、推薦入試において昨年度とは動向に変化があり、減少した。 【2019 年度】評価：B 中高ともに目標人数以上の入学者を確保することができたが、定員確保には至らなかった 【2020 年度】評価：B 中高ともにほぼ目標人数の入学者数を確保できたが定員確保には至らなかった。

※評価　Ａ：90%以上達成　Ｂ：75%程度達成　Ｃ：50%達成　Ｄ：25%程度達成　Ｅ10%以下の達成

2)カリキュラムを見直し、魅力ある学校づくりを推進する。	【2016 年度】評価：A 地歴・公民の科目選択の自由度を増やし、情報の履修学年の適正化および英語の４技能への対応などカリキュラムを見直すことができた。 【2017 年度】評価：B 新教育課程を見据え、総合の時間(課題研究)をカリキュラムの中に組み込んだ。 【2018 年度】評価：B 新教育課程の特例措置(1 年)により、「総合的な探究の学習」を組み込んだ。また、1・2 年の一貫特進 A クラスにおいては、生徒の実態を踏まえ、7 限授業を週に 2 回に変更した。 【2019 年度】評価：B 新教育課程のカリキュラムに取り組み始めた。 【2020 年度】評価：B ２０２２年度から月１回の土曜日休業も視野に入れ、新教育課程のカリキュラムに取り組んでいる。

アクションプラン・進捗状況・実行結果 **部署名：**管理職中学

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)中学技術でプログラミングの授業を取り入れ、他校に先行して魅力ある教育を実践する。	【2019 年度】評価：B 人型ロボット「Pepper」やボルトロボットボール「Sphero BOLT(ボルト)」を整備してプログラミング教育を実施している。 【2020 年度】評価：B 人型ロボット「Pepper」およびプログラム言語「スクラッチ」を用いたプログラム教育を行った。

アクションプラン・進捗状況・実行結果 **部署名：**入試広報高校

マスタープラン	【財政基盤安定化】入試広報の充実
最終目標	各種教育活動の成果を見て、広報材料として活用する。
アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）

※評価　Ａ：90%以上達成　Ｂ：75%程度達成　Ｃ：50%達成　Ｄ：25%程度達成　Ｅ10%以下の達成

1)広報活動の資料などを作成する専門係を設ける。	【2016 年度】評価：E 多忙な担任にこの業務は依頼できない。ある程度のパソコン能力を持った者が副担任などで部にいてくれると助かるが、現状を考えると不可能な要求であることは理解している。 【2017 年度】評価：E 他の分掌、教科指導などを考えると、この業務に人員を用意することは不可能と思われます。広報部長ができる範囲で行うのが現実的でしょう。 【2018 年度】評価：E 入試広報活動が重要であることはたしかであるが、この業務を専心できるのは部長一人。どなたかあと一人いてくださると、可能性は広がると思います。引き続き要望します。 【2019 年度】評価：E 中学校や塾を訪問することで、広報活動に役立つ情報を得ることはしばしばある。得た情報に即して資料を作成し広報活動を展開できれば、一層効果的だろうと思うが、人員が少ない。部長を支える者が一人いると状況は変わるが、高校の現状を考えると不可能な要求であることは理解している。 【2020 年度】評価：E 　どの分掌も少人数で働いていることを考えると、この要求は現実的ではありません。入学した生徒相手に教育活動をしていくことも「広報」であるがゆえ、外部に向けての広報活動はできる範囲で行っていくしかない。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　**部署名：**管理職中高

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)　人事配置・役割分担を明確にし、広報活動のより一層の充実を図る。	【2016 年度】評価：A 人事配置・役割分担を明確にすることができ、広報活動のより一層の充実を図る事ができた。 【2017 年度】評価：A 人事配置・役割分担を明確にすることができ、広報活動のより一層の充実を図る事ができた。 【2018 年度】評価：A 人事配置・役割分担を明確にすることができ、広報活動のより一層の充実を図る事ができた。 【2019 年度】評価：A 人事配置・役割分担を明確にすることができ、広報活動のより一層の充実を図る事ができた。 【2020 年度】評価：A 人事配置・役割分担を明確にすることができ、広報活動のより一層の充実を図る事ができた。

※評価　A：90%以上達成　B：75%程度達成　C：50%達成　D：25%程度達成　E 10%以下の達成

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：中高事務室高校

マスタープラン	【生活環境の強化】施設設備整備
最終目標	2015 年度で校舎耐震化も完了する。14 期中期経営計画で懸案となっている音楽室棟・部室等の改修・空調の更新を行う。15 期中期経営計画で各校舎の外壁、防水等本格的な補強工事に入る。
アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)国際教育館空調設備更新（20,000 千円）2016 年度希望	【2016 年度】評価：A 夏期休業期間を利用して工事を行った。事務室に集中リモコンを設置したことによりタイマー設定ができるようになった。結果、消し忘れ等のリスクが減少した。
2)3 号館前部室を国際教育館下へ移設（5,000 千円）2016 年度希望	【2016 年度】評価：A 夏期休業期間を利用して工事を行った。旧部室は、春期休業期間中に解体した。現在は、更地になっている。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：中高事務室中学

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
3)保健室を改造し、面接室（3 部屋）を設置する。2016 年度希望	【2016 年度】評価：A 夏期休業期間を利用して工事を行った。夏期休業後から教育相談のための面談や教室に入れない生徒のための部屋として使用している。
4)6 号館トイレ改修（5,531 千円）2016 年度希望	【2016 年度】評価：A 夏期休業期間を利用して工事を行った。各階男女各トイレに和式を１ブース、残りを洋式のブースとした。夏期休業後から使用している。（主に中学生）

※評価　Ａ：90%以上達成　Ｂ：75%程度達成　Ｃ：50%達成　Ｄ：25%程度達成　Ｅ10%以下の達成

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：中高事務室（中高）

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
5)音楽室・中美術室改修　４号館校舎建築と合わせて検討	【2016 年度】評価：E 音楽室棟は、雨漏り（雨水管回り）があったため、昨年、屋上のその雨水管回りを補修したが、老朽化も進んでいるため、今後、４号館校舎建築と合わせて検討していく。 【2017 年度】評価：E 具体的な検討に至らなかった。 【2018 年度】評価：E 4 号館校舎建築とは分けて検討することとし、2019 年度アクションプランに盛り込み予算を確保できた。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：中高事務室高校

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
6)4 号館空調設備更新　4 号館校舎建築と合わせて検討	【2016 年度】評価：E ４号館空調設備（ＧＨＰ）は、1998 年 11 月に設置しており、19 年経過しているため不具合も多く、頻繁に修理している。今後、４号館校舎建築と合わせて検討せざるを得ない。 【2017 年度】評価：E 現在、修理しながらも使用できていることもあり、具体的な検討に至らなかった。 【2018 年度】評価：E 2018 年度は、１０教室のリモコンを交換したが本体に係わる大きな故障はなかったこともあり、具体的な検討に至らなかった。 【2019 年度】評価：A 2019 年度に学園新校舎建設委員会及び中高新校舎建築委員会が組織された。本格的な検討がスタートしたこともあり、4 号館校舎は 2020 年度当初からすべて特別教室とし空調機更新は行わないこととした。

※評価　Ａ：90%以上達成　Ｂ：75%程度達成　Ｃ：50%達成　Ｄ：25%程度達成　Ｅ10%以下の達成

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：中高事務室中学

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
7)5 号館地階、中職員室空調設備更新	【2016 年度】評価：D 5 号館地階（中音楽室、英会話教室）は、2017 年度に予算化できた。6 月中には更新する予定。 【2017 年度】評価：C 5 号館地階（中音楽室、英会話教室）は、夏期休業を利用して更新できた。中職員室は、現在使用できていることもあり、具体的な検討に至らなかった。 【2018 年度】評価：E 5 号館地階（中音楽室、英会話教室）空調設備更新は終了したため、中職員室空調設備更新は別項目とした。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：中高事務室高校

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
8)ブラバン部室兼倉庫改築　4 号館校舎建築と合わせて検討	【2016 年度】評価：E 講堂裏にあるプレハブの部室兼倉庫である。立地条件も悪いため、今後、４号館校建築と合わせて検討していく。 【2017 年度】評価：E 具体的な検討に至らなかった。 【2018 年度】評価：E 4 号館校舎建築とは分けて検討することとし、2019 年度アクションプランに盛り込み予算を確保できた。
9)7 号館・大教室空調設備更新	【2016 年度】評価：E 2000 年～2001 年に設置した空調設備（ＧＨＰ）である。中高内で優先順位をつけながら、今後検討する。 【2017 年度】評価：E 現在、使用できていることもあり、具体的な検討に至らなかった。 【2018 年度】評価：E 7 号館空調設備が、故障し修理不可のため、2019 年度予算に盛り込むことができた。2019 年度に更新する予定である。大教室については、現在使用できていることもあり具体的な検討に至らなかった。 【2019 年度】評価：B 7 号館については、2019 年度夏期休業前に空調設備更新が完了した。また、大教室については、2020 年度当初予算に盛り込むことができた。

※評価　Ａ：90%以上達成　Ｂ：75%程度達成　Ｃ：50%達成　Ｄ：25%程度達成　Ｅ10%以下の達成

10)大教室空調設備更新	【2020 年度】評価：B 2020 年度はコロナ禍の影響で夏休みを工事期間にできないため、事業が完了しなかったが、2021 年度当初予算に盛り込むことができたので 2021 年度に事業完了の見込み。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　**部署名：**中高事務室中学

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
11)5 号館 1 階空調設備更新	【2016 年度】評価：E 2001 年に設置した空調設備（GHP）である。中高内で優先順位をつけながら、今後検討する。 【2017 年度】評価：E 現在、使用できていることもあり、具体的な検討に至らなかった。 【2018 年度】評価：E 現在、使用できていることもあり、具体的な検討に至らなかった。 【2019 年度】評価：E 5 号館 1 階空調設備更新について、2020 年度当初予算に盛り込むことができた。2020 年度に更新する予定である。 【2020 年度】評価：B 2020 年度はコロナ禍の影響で夏休みを工事期間にできないため、事業が完了しなかったが、2021 年度当初予算に盛り込むことができたので 2021 年度に事業完了の見込み。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　**部署名：**中高事務室高校

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
12)1 号館空調設備更新	【2016 年度】評価：E 2001 年に設置した空調設備（GHP）である。中高内で優先順位をつけながら、今後検討する。 【2017 年度】評価：E 現在、使用できていることもあり、具体的な検討に至らなかった。 【2018 年度】評価：E 現在、使用できていることもあり、具体的な検討に至らなかった。

※評価　A：90%以上達成　B：75%程度達成　C：50%達成　D：25%程度達成　E 10%以下の達成

	【2019 年度】評価：E 1 号館校舎空調設備更新について、2020 年度当初予算に盛り込むことができた。2020 年度に更新する予定である。 【2020 年度】評価：B 2020 年度はコロナ禍の影響で夏休みを工事期間にできないため、事業が完了しなかったが、2021 年度当初予算に盛り込むことができたので 2021 年度に事業完了の見込み。
13)5 号館 2.3 階空調設備更新	【2016 年度】評価：E 2004 年に設置した空調設備（GHP）である。中高内で優先順位をつけながら、今後検討する。 【2017 年度】評価：E 現在、使用できていることもあり、具体的な検討に至らなかった。 【2018 年度】評価：E 現在、使用できていることもあり、具体的な検討に至らなかった。 【2019 年度】評価：E 現在、使用できていることもあり、また、優先順位からも具体的な検討に至らなかった。 【2020 年度】評価：E 現在、使用できていることもあり、また、優先順位からも具体的な検討に至らなかった。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　**部署名：**中高事務室中学

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
14)6 号館空調設備更新	【2016 年度】評価：E 2003 年に設置した空調設備（GHP）である。中高内で優先順位をつけながら、今後検討する。 【2017 年度】評価：E 現在、使用できていることもあり、具体的な検討に至らなかった。 【2018 年度】評価：E 現在、使用できていることもあり、具体的な検討に至らなかった。 【2019 年度】評価：E 現在、使用できていることもあり、また、優先順位からも具体的な検討に至らなかった。 【2020 年度】評価：E 現在、使用できていることもあり、また、優先順位からも具体的な検討に至らなかった。

※評価　A：90%以上達成　B：75%程度達成　C：50%達成　D：25%程度達成　E 10%以下の達成

15) 中職員室空調設備更新	【2018 年度】評価：E 現在、使用できていることもあり、具体的な検討に至らなかった。 【2019 年度】評価：E 中職員室空調設備更新について、2020 年度当初予算に盛り込むことができた。2020 年度に更新する予定である。 【2020 年度】評価：B 2020 年度はコロナ禍の影響で夏休みを工事期間にできないため、事業が完了しなかったが、2021 年度当初予算に盛り込むことができたので 2021 年度に事業完了の見込み。
16) 中学美術室・技術室は、7 号館 1 階を改造し新設する	【2019 年度】評価：A 2019 年度当初の授業や部活動に間に合うように竣工した。学校見学会においても積極的にアピールしている。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　**部署名：**中高事務室高校

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
17) 中学美術室・技術室を吹奏楽部活動の第二音楽室に改造する	【2019 年度】評価：A 2019 年度当初の授業や部活動に間に合うように竣工した。学校見学会においても積極的にアピールしている。
18) グループ学習やプレゼンに特化した、ラーニングコモンズを新設する。	【2019 年度】評価：A 2019 年 6 月末に竣工した。7 月から英会話、探求の授業のほか地歴の授業や保護者向けの短期留学説明会にも活用している。学校見学会においても積極的にアピールしている。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　**部署名：**管理職中高

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1) 新 4 号館校舎建築委員会を設置する。(2020 年度)	【2016 年度】評価：E 2020 年度に新 4 号館校舎建築のための委員会を設置できるように、生徒数確保に努め、ＩＣＴ教育の実現等の観点からも検討を進める。 【2017 年度】評価：E 2020 年度に新 4 号館校舎建築のための委員会を設置できるように、生徒数確保に努め、ＩＣＴ教育の実現等の観点からも検討を進める。 【2018 年度】評価：E 2019 年度アクションプランに新規に盛り込み、2019 年度に前倒しして検討に入ることとした。

※評価　Ａ：90%以上達成　Ｂ：75%程度達成　Ｃ：50%達成　Ｄ：25%程度達成　Ｅ10%以下の達成

2)新4号館校舎・音楽室棟建築のための建築委員会を設置し、具体的な検討に入る。	【2019年度】評価：A 新4号館校舎建築委員会（学園組織も同時進行）で具体的検討に入った。今後は、業者等も交えて2022年3月竣工を目指し継続する。音楽室棟改築に向けては、2020年度予算に実施設計の予算が確保できたこともあり、2020年度に継続する。 【2020年度】評価：A 新4号館校舎・音楽室棟の改築のための具体的検討が完了し、新4号館については建築工事が始まり2022年3月に竣工予定。音楽室棟については、実施設計も完了しているため、2022年度予算が確保できれば建築工事が始められる。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　**部署名：**管理職高校

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
3)ICT教育のためのWi-Fi環境（設備）を整備する。	【2018年度】評価：E 予算確保に至らず、継続となったが、一部校舎の整備については、2019年度予算が確保できた。 【2019年度】評価：C 2020年度中に一部（4号館校舎、音楽室棟）を除き完成予定。 【2020年度】評価：A 体育館、格技場を除き、音楽室棟を含め、校舎のWi-Fi環境（設備）を整備した。
4)探究活動のためのラーニングコモンズの設置を検討し、2019年度当初予算に計上する。	【2018年度】評価：A 現、オーストリア教室（英会話教室）をグループ学習やプレゼンに特化したラーニングコモンズに改装するための2019年度予算が確保できた。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　**部署名：**管理職中学

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
5)中学生が活動できる体育施設の整備について、予算化を含めて具体的な検討をする。	【2018年度】評価：E 予算規模も大きく予算化を含め具体的な検討には至らなかったが、2019年度アクションプランに中高として（別項目）4号館校舎建築と合わせグラウンドの整備について盛り込むこととする。

※評価　A：90%以上達成　B：75%程度達成　C：50%達成　D：25%程度達成　E 10%以下の達成

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：管理職中高

アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
6）中高生が活動できるグランドの整備について、新 4 号館等の建築と合わせて具体的に検討する。	【2019 年度】評価：E グランドの整備については、具体的な検討にいたらなかった。新 4 号館校舎改築の目途が立ったため、今後は、新 4 号館校舎改築と分けて継続して検討する。 【2020 年度】評価：E 資金調達の課題もあり、具体的な検討に至らなかった。

アクションプラン・進捗状況・実行結果　　部署名：渉外部高校

マスタープラン	【その他】ＰＴＡ・後援会・同窓会との連携強化
最終目標	後援会との話し合いを密にし、活性化を図る。同窓会とのパイプをより確固たるものにする。
アクションプラン	実行結果（達成状況も踏まえる）
1)PTA 会員の意識の向上を図る。（学年 PTA 出席率向上）	【2016 年度】評価：B 授業参観や講演会などを準備して、出席しやすいように計画した。 【2017 年度】評価：B 進路講演会や学級懇談会を設定して、出席率を上げようとした。 【2018 年度】評価：B 授業参観や進路講演会などを計画して、出席しやすいように工夫した。 【2019 年度】評価：B 授業参観や進路講演会を計画して、会員の意識の向上を図った。 【2020 年度】評価：B コロナ禍により参加が困難な保護者も見られたが，予防対策を徹底して各委員会を開催することができた。
2)PTA 活動の具体的実践に取り組む。（研修会充実・学園祭活性化）	【2016 年度】評価：B 保護者と協力して、魅力ある研修会・学園祭を計画した。 【2017 年度】評価：B 保護者と協力して、魅力ある研修会・学園祭を計画した。 特に、全体研修会が好評だった。

※評価　Ａ：90%以上達成　Ｂ：75%程度達成　Ｃ：50%達成　Ｄ：25%程度達成　Ｅ10%以下の達成

	【2018 年度】評価：B 保護者と協力して、魅力ある研修会・学園祭を計画した。 【2019 年度】評価：B 保護者と協力して研修会を充実させ、魅力ある学園祭の催しを計画した。 【2020 年度】評価：B コロナ禍により各研修会と学園祭は中止された。
3)役員・理事との連絡を密にとり、円滑な運営を心がける。（理事会効率化）	【2016 年度】評価：B 事前に役員と連絡を取って、資料を確認してもらい、円滑に進むように努力した。 【2017 年度】評価：B 共働きの家庭が多い中、事前に役員と連絡を取って、資料を確認してもらい、円滑に進むように努力した。 【2018 年度】評価：B 共働きの家庭が多い中、事前に役員と連絡を取って、資料を確認してもらい、円滑に進むように努力した。また、会長を継続してお願いしたことが良かった。 【2019 年度】評価：B 役員、理事と連絡を密にとり共通理解を図りながら円滑な運営を心掛けた。 【2020 年度】評価：B コロナ禍により役員会、理事会は 2 回のみ開催。以後は中止された。
4)学校経営・学級経営を円滑にするために、教職員の PTA 活動に対する理解を深める。（相互連絡強化）	【2016 年度】評価：B 管理職・担任・渉外部員と緊密に連絡し、「報告・連絡・相談」を実施した。 【2017 年度】評価：B 管理職・担任・渉外部員と緊密に連絡し、「報告・連絡・相談」を実施した。 特に、担任は PTA 通知・案内の配付・回収で協力してもらった。 【2018 年度】評価：B 管理職・担任・渉外部員と緊密に連絡し、「報告・連絡・相談」を実施した。引き続き継続する。 【2019 年度】評価：B 管理職、担任、渉外部員と緊密に連絡し、「報告・連絡・相談」を実施した。引き続き継続する。 【2020 年度】評価：B 管理職、担任、渉外部員と緊密に連絡し「報告・連絡・相談」を実施した。引き続き継続する。

※評価　A：90%以上達成　B：75%程度達成　C：50%達成　D：25%程度達成　E 10%以下の達成